

何かに夢中になって

岡崎市六ツ美南部小 パラアスリートの鈴木さん講演

岡崎市六ツ美南部小学校で二十五日、東京パラリンピックの陸上・走り高跳び(T64クラス)片側に下腿義足を装着し競技するクラス、日本代表に内定しているパラアスリートの鈴木徹さん(三)の講演会が開かれた。三、六年生四百七十五人が聴き入った。(高木駿太郎)

鈴木さんは、五歳の「を患い、いじめられる」ころに心臓病と吃音症(きつごん)した。学校の体育の授業

で活躍すると褒められ、下十一秒を残して切断したことからスポーツに夢中になり、高校時代にはハンドボールで国体に出場した。筑波大学に推薦入学が決まったが、高校卒業直前に自身の運転する車でガードレールにぶつかり負傷。右ひざ



走り高跳びでバーを飛び越える鈴木さん

岡崎市六ツ美南部小学校で

競技用義足で走り高跳び実演

児童に対して「何でもいいから時間を忘れて夢中になれることを見つけてほしい」と話した。

競技用の義足を着けて走り高跳びの実演も行った。六年の(三)は「夢が無くても夢中になれることがあれば大丈夫だと思った。これから、夢中になれることを見つけていこうと思った」と話した。

東海愛知新聞より抜粋